

北信濃奇譚

井上貴絵

今年の冬は寒かった...と、毎年春が来るたびに言っているような気がします。新日美展に絵を出展するようになってから、一年の締めが秋となりました。私は学生時の専攻が日本画でしたが、卒業後勤務した印刷会社で技能を得たグラフィックデザイナーを長くしていました。幼少時よりの美術ファンが高じ、自身でも本格的に描き始めたところを、貴協会から心よく仲間に加えていただき有難いと存じております。

私は長野市在住ですが、都会の方からすれば、名勝地の近場に住み、描く対象に恵まれていると思われるかも知れません。しかし、信濃の山家(やまが)住まいといえども、長野市街地から名勝地へ出向く労力は県外からの観光客と同じです。昨今では名勝・古刹のことをパワースポットなどと称して、善男善女が宝くじの高額当て等のご利益を求め、ごぞつて押しかけ、あれだけ人跡が雑念を持ち込めば、かつて修験道場であった土地の霊験も薄まるのではないでしようか。

私は風景画が好きですが、他に人物画も描きたいと思うものの、身近な所でモデルがいません。私には小学四年生の姪っ子がおりまして、この子の得意科目が図画、私を師と仰いでいるので、モデルになって声をかけたところ、「(否定の意味で)いいよ」とつれない返事。私が「普段着じゃなくてお洒落着姿を描くんだよ」と更に口説くと、「遠慮しとくよ」。そんなこんなで、四季折々景色のネタを求めて、ウォーキングしながら町の公園を歩き回り、更に足を延ばして郊外の里山まで出向きますが、最近では家族から、熊や猪が出るから危ない、行つてはいけない、とたしなめられるのです。これというのも昨春秋、早朝のJR長野駅の新幹線乗り場を熊が歩いていたらと大騒ぎになり、全国ニュースで報じられたほど。こんなことは滅多にない珍事です。

実は私も、熊騒動が起こるしばらく前に、自宅付近で狸を目撃しているのです。狸は東京都心にも出るのに、長野人がなにを騒ぐのかと、お笑いにならないでください。あれは昨年

春宵、庭で遊んでいた家の飼い猫が傷を負ってきまして、いつも近所の猫とのケンカなら派手に雄叫びをあげるのに、当夜は静かであったので、はて面妖な?と気に留めながら翌日、かかりつけの獣医へ連れて行こうと支度していた自宅駐車場の側溝の中、蓋の金網ごしに、肉厚な丸い背に山嵐のような毛足の長い豪毛が目に入ったのです。人に飼われる犬猫とはまったく異質の、野性のエネルギー漲る勇姿に、私は呆然としてしまいました。  
あのような獣が、家のボートとした猫にガンつけたならば、猫は声も出なかったに違いありません。  
ペットの犬猫は半分人。人に準ずる生きものである、かといって猫に振袖を着せモデルにしようとも、人物画にはなりません。といった話で近況を結ばせて頂きます。

私の石彫制作

鈴木聡

第三十六回新日美展から早いもので半年が立ちます。

先ず私の石彫制作は、見たり感じたりすることから始まります。と、言いますのは、家具店や雑貨店に行き色々見て刺激を受けています。ふと頭の中で作品のイメージが湧いてくることもしばしば。たまになんですが、茨城県の笠間市や栃木県の益子に足を運び色々な陶芸家の作品等を観て刺激を受けています。

私にとって大好きな場所があるのですが、自宅から車で約三時間ほどかかる栃木県的那須高原です。これがまたたまらなくいい場所です。夏秋冬通じて訪れる場所なのです。

私の妻と子供たちも大好きな場所でもあります。その場所に行く不思議と自分の心といえますか、気持ちといえますか、何かクリーンになったような感じにさせられます。そして自然を見て色々なことを感じ、考えさせられ、「よしやるぞ」と気合が入る。私の場合、ひとつの作品を制作するときの

前半はトラックの荷台で、後半は工場です。トラックの荷台の上では大体の形までを制作し、その後工場では穴をあけたり、磨いたりですね。  
初めに頭の中に描いた作品を制作し始めるのですが、半分くらい制作しているうちに全く違う形になり、完成まで仕上がってみると全く違う形になることが大半なのです。そのひとつの作品を制作している時間の中で、色々なものを見て、そして色々なことを感じ私の中で色々な変化が起きていくのかと思ったりもしています。  
でも本当は私にとって石彫制作にあたり大切なのは、父がいて、母がいて、私の妻、娘、息子がいて私...これですね。

私のひとり言

飯村君江

夏も終わろうとする候の、小品展でのこと。

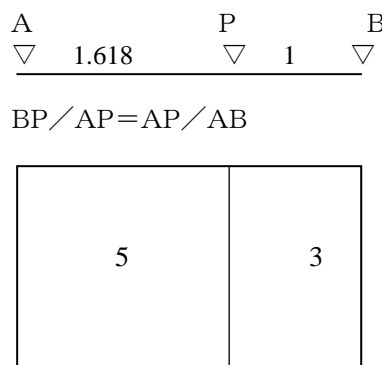
沢山の力作が並ぶ中に、私も四号位の作品を出品していました。  
その時、出品者のお一人でもあった「氏から、私の作品について、「貴女の絵から、ドヴィツシーのピアノ曲が聴こえてくるようです。」とお言葉をいただいた。

日頃、余りお話しもしたこともなかったのですが、内心大へん嬉しく思いました。自分としても日頃よく聴いている大好きな作曲家で、ドヴィツシーの音楽は、絵画的ともいわれ又、ペルガマスク組曲に代表される旋律は、本当に聴く者の心を癒してくれます。

そのような雰囲気を感じて下さった事に大いに感激し、又自分の方向性も見いだされる思いがしました。その時、「氏は自分分はドヴィツシーの『沈める寺』のピアノ曲を、絵にしてみた」との事。  
どんな作品になるのかと、期待に胸ふくらませて...

シリーズ 美とは? 小高峯夫

自然の形と人が造った形には類似点が多くあります。人間はただ真似をしたのではなく意識的に自然の形を計算したのです。古代人は神のデザインをなんとか盗もうとした。そしてついに黄金分割に行きついたのです。



一本の線を二分します。長い方と全体との比、短い方と長い方との比を等しくします。すると比率は1:1.618になります。この線を使つて長方形を造ると面積の比はほぼ8:5、若しくは5:3です。古代人は神聖な比率と呼びました。  
この比率は自然界にも多く見られます。何世紀もの間この比率は建築の基準になつて来ました。  
昔の人は数字に意味を持たせ建造物にも応用してきました。巾3フィート高さ5フィートの場合、3という数字は神を象徴しているのです。あるいは三位一体の象徴でもあります。一方5は人間です。  
この二つの数字を組み合わせたのが、黄金分割です。此の比率を基準にした建造物や作品は多数あります。パルテノン神殿、ノートルダム寺院の正面フェース、ミケランジェロのシステイナ礼拝堂の天井画「アダムの創造」もこの神聖な比率になっています。ミケランジェロは計算をして描いたのではなく自分が美しいと